

巻頭言

二種類の勇気をもて～「多文化」の世界を生きるために



石隈利紀



TOSHINORI ISHIKUMA

「文化」とはある民族などで作り出され共有されている固有の行動様式や生活様式をさしますが、一方私たち一人ひとりも固有の考え方や行動様式も「文化」ととらえることができます。私たちは、どちらの意味においても、「多文化」の世界を生きています。

多文化を生きるために、二種類の勇気が必要です。映画『男はつらいよ』の「フーテンの寅さん」の勇気と『釣りバカ日誌』のハマちゃんの勇気が、モデルになります。

寅さんは、相手の文化に染まる勇気をもっています。寅さんは、「100人に対して100の顔をもつ」人です。寅さんは、テキヤ（露天商）稼業で全国を旅しながら、多くの人に出会います。寅さんは、出会う相手の一人ひとりの世界にスーッと風のように入り、相手の世界に染まります。一人ひとりも生活や文化を理解しようとするのは、人とつながる出発点です。相手の世界に入れてもらうには、相手の価値観でものを見ることです。それは、自分を失う恐怖を伴います。ときどき自分を取り戻すことが必要です。

一方ハマちゃんは、文化や価値観が違う人と対等に、タメ口で関わる勇気をもっています。ハマちゃんは、「百人に対して一つの顔で接する人」です。釣りが大好き、家族を愛し、仕事はほどほどというライフスタイルをもつハマちゃんは、相手が誰であろうと、相手に合わせて自分を変えるということはありません。同時に相手を無理やり、自分の望む方向に変えようとしません。相手の生き方を認め、自分の生き方を示す対等の関わりは、「仲間はずれになるかもしれない」という不安があります。その不安とつきあう力が必要です。

「通常教育」と「特別支援教育」、教科教育と教育相談、学力向上とゆりの教育…対峙することもあり、葛藤もあります。これらの背景には、今日までの教育実践に基づく豊かな知恵の蓄積（文化）があります。私たちは、相手の文化に染まる勇気と、対等に関わる勇気をもって、多文化間の葛藤を歓迎し、積極的なかわりのなかから、新しい教育を創造したいものです。

目次

巻頭言

二種類の勇気をもて～「多文化」の世界を生きるために

●石隈利紀

「科学の芽」賞について

「科学の芽」賞について●篠原吉徳……………1

新任教員研修

新任教員の附属学校訪問を実施しました●生田 茂……………1

新任教員研修に参加して●小笠原真矢……………1

新任教員交流会に参加して●鈴木絵美……………1

附属の今

附属の今（附属久里浜特別支援学校）●馬場信明……………2

10年経験者研修

研修で伝えたかったこと●江口勇治、盛山隆雄……………2

特別支援教育

平成19年度免許法認定公開講座（特別支援教育研究センター）●庄司和史……………3

特別支援教育コーディネーター連絡会の設置について●篠原吉徳……………3

夏期研修会

「附属学校の歴史と伝統」

—平成19年度筑波大学附属学校教育局夏期研修会講演(2)—●木村範子……………4

附属学校教育局夏期研修会 全体の概要●菅野和恵……………4

指導教員の取組み

神出鬼没の2年半●下山晃司……………4

温故知新

修学旅行発祥の学校●高澤耕一……………5

名物先生紹介

附属桐ヶ丘特別支援学校の名物先生—村上友良先生—●吉沢祥子……………5

トピックス

附属坂戸高等学校 特別支援教育への取組み●初谷和行……………6

●広報誌名「ポローニア」の由来

「ポローニア」とは、「桐」の属名であり、Paulowniaと綴る。本誌を「ポローニア」と名づけたのも、筑波大学の紋章に「五三の桐」が使われていることに拠る。しかし、ポローニアを付与した理由が他にも存在する。近代西洋医学を日本に伝えたシーボルトは、日本において、桐が瑞祥の象徴と見なされ、皇室をはじめ高貴な家柄の紋所として用いられていることを知り、Paulownia（後援者のオランダのパウロウナ公妃に因む）こそが植物の桐のイメージを表現していると考え、桐の学名（Paulownia imperialis）に定め、パウロウナ公妃に献呈した。今後いつまでも、多数の読者に愛され続けることを願い、ポローニアの故事来歴やエピソードに基づき、ポローニアと命名した。



「科学の芽」賞について

「科学の芽」賞実行委員会（附属学校教育局） 篠原吉徳

第2回目を迎えました「科学の芽」賞には、多数の小・中学生また高校生からの応募がありました（9月30日（日）が応募締切日）。応募総数は、前回は大きく上回り、846件に達しました。846件の内訳は、小学生部門が411件（個人407件、団体4件）、中学生部門は416件（個人383件、団体33件）、そして高校生部門の19件（個人12件、団体7件）でした。現在、応募作品は、審査の最中です。受賞者の、新聞社各社への発表は11月22日（木）が予定されております。なお、授賞式は12月22日（土）に執り行われます。

新任教員研修

新任教員の附属学校訪問を実施しました

附属学校教育局研修委員会委員長 生田 茂

今年の2月、附属学校教育局として始めて、「新任教員の交流と懇親の夕べ」を開催致しました。そこで多くの先生から「自分の所属する学校以外の附属学校を訪ねてみたい」という強い要望が寄せられました。

こうした声を受けて、今年度から、一日に二つの附属学校を訪ねるという強行日程ではありましたが、自分の所属する学校とは違う附属学校を訪ね、学び合う交流会を実現することができました。それぞれの学校の授業や学校行事に出来るだけ影響がないようにと、二つのグループに分かれての実施となりました。「二つだけでなく、もっと多くの附属を」という声も含めて、来年度は企画に智恵を絞りたいと思っています。受け入れて頂きました附属学校のみなさん、本当に有り難うございました。

新任教員研修に参加して

附属聴覚特別支援学校 小笠原真矢

今年6月に附属学校新任教員研修の一環として交流会が開かれました。附属桐ヶ丘特別支援学校では、私たちが教室から出ようとした時、一人の生徒が私たちを撮りたいとカメラを用意し目を輝かせながら待ち受けていました。自ら何でも挑戦しようという意欲に満ちあふれた生徒がたくさんいる学校という印象を受けました。新任の私たちにとても失敗を恐れず挑戦することは、欠かすことのできない心の持ち方と改めて考えさせられました。今回の交流会を通して、附属学校教員としての意識を高め、さらには他校の新任教員のみなさんとたくさんの意見・情報交換ができ、とても充実した研修でした。今後も附属学校の交流会・研修等があれば積極的に参加し、生徒と共にさらに飛躍していきたいと思っています。

新任教員交流会に参加して

附属大塚特別支援学校 鈴木絵美

2日間の日程で、附属小学校及び附属視覚特別支援学校、附属坂戸高等学校及び附属桐ヶ丘特別支援学校の学校見学と教員交流に参加させていただきました。私は、非常勤講師で勤務させていただいた学校もありましたが、普段関わる機会の少ない学校も含めて、所属する学校とは異なった各学校の特色ある授業風景、学校の雰囲気や様子、各学校教員の考え方などに接して、知見を広めることができました。今年度が初めての開催ということでしたが、この時期に新任教員として交流会に参加できたことを嬉しく思います。主催していただいた附属学校教育局の関係者の方々にお礼を申し上げるとともに、教員相互の理解が深められるような情報交換の場が一層増えることを期待します。最後に、附属学校の教員としてさらに特色ある学校作りをしていく所存であります。ありがとうございました。



附属桐ヶ丘特別支援学校 小学部授業参観



附属視覚特別支援学校高等部専攻科理学療法実習を体験する研修参加教員